

「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」」  
基盤的研究・人材育成 総合拠点

# 政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策 プログラム(GIST)について

2012年10月27日(金)

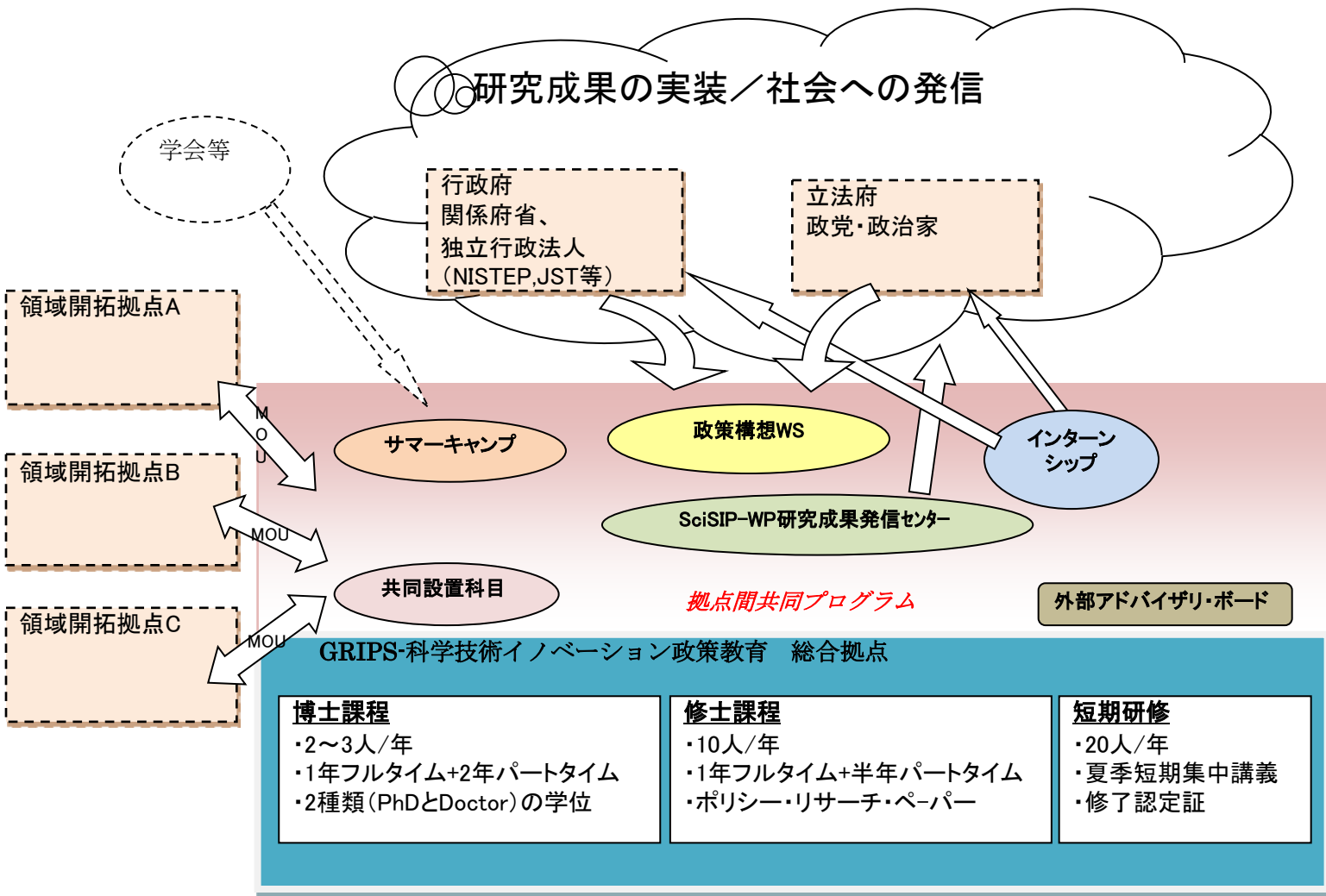
研究・技術計画学会 第27回年次学術大会  
公開企画セッション@一橋大学

# GISTの教育目標

- 科学的なアプローチに基づく政策研究能力
  - 先行研究のレビュー、理論に基づく仮説の構築
  - 客観的事実やデータによる仮説検証
  - 分析結果に基づく含意の考察、など
- 科学技術イノベーション政策の企画・立案、遂行、評価、修正を行う能力
  - 過去の様々な内外の政策及び政府の介入とその効果に関する知識
  - 科学研究やイノベーションのプロセスそのものに対する理解
  - 現実的な政策の形成プロセスに関する理解と企画能力
  - 海外の関係者・機関との議論・交渉の能力

# 日本全体で目指すべき人材育成の 枠組と体制

- 府省・セクターを超えた協働体制
  - 科学技術イノベーション政策と関係の深い各府省（文科省、経産省、農水省、総務省、etc.）や民間セクターからの学生および教員の受入
  - 各府省の研究機関、教育機関との協力関係
- 国際的な協力体制
  - 欧米の先進的なイノベーション政策研究拠点との交流、アドバイザー依頼
  - アジアの新興国等のイノベーション研究・教育ネットワークのハブ



将来の公共政策研究・教育フェデレーションへ

# 3種類の教育プログラム

## 1. 博士課程： 2-3名/年

- 1年間フルタイム+2年間パートタイム就学
- 理工系バックグラウンドの現役行政官等を想定したカリキュラムを提供
- 行政官キャリア向け学位 (Doctor) 又は研究者向け学位 (PhD) の2種類の論文執筆指導

## 2. 修士課程： 10名/年

- 1年間フルタイム+半年間パートタイム就学
- 理工系バックグラウンドの現役行政官等を想定したカリキュラムを提供
- 学位論文に替えてポリシー・リサーチ・ペーパーの作成を指導

## 3. 短期研修： 20名/年

- 夏季土曜日を中心に3日間集中

# 科学技術イノベーション政策プログラム (博士課程・修士課程)

| 課程     | 修士課程   | 博士課程   |
|--------|--|--|
| 標準修業年限 | 1年6ヶ月<br>(1年間フルタイム+6ヶ月間<br>パートタイム就学)<br>*パートタイム期間にポリシー・リサーチ・ペーパーの執筆を想定 | 3年<br>(1年間フルタイム+2年間パート<br>タイム就学)   |
| 修了要件   | 30単位以上取得及び<br>ポリシー・リサーチ・ペーパー   | 14単位以上取得及び博士論文   |
| 学位     | 修士(公共政策)<br>Master of Public Policy                                    | 博士(公共政策分析)<br>Ph.D. in Public Policy または<br>博士(政策研究)<br>Doctor of Policy Studies |

# 自然科学分野との接点および 広範なキャリアパスの構築

- 自然科学系の専門知識
  - 特定分野に特化した講義ではなく、複数分野のオムニバス(先端的研究動向、中心課題・成果、政策・制度とのかかわり等)を提供(東京大学および他の拠点とも連携)
  - 特定分野に特化した政策との関係については、必要であれば論文指導体制に外部専門家を招聘(東京大学、NISTEP、JST-CRDSおよび他の拠点とも連携)
- 学生のターゲットとキャリアパス
  - 主に理工系バックグラウンドの現役行政官等を想定(社会科学バックグラウンド、新卒学生を排除しない)
  - 科学技術イノベーション政策に関係する民間シンクタンク職員や、独法職員等にも積極的にアプローチ
  - 卒業生のキャリアパスについては、領域開拓拠点や産業界とも広く協議・連携し、行政官以外のキャリア構築も支援する

# アジアにおける科学技術イノベーション 政策研究・教育の中核形成

- 本プログラムでは留学生を受け入れ、日本人学生と一体的な指導をおこない国際的視野を持つ人材を育成する
  - 特に博士課程では、欧米・アジアの研究・教育機関とMOUの締結を通じて、ABD (All But Dissertation) ステータスの学生の受入・派遣を進める
- 本学が既に有する国際ネットワークを活用して活発な研究・教育活動を実施
  - 我が国の政策立案への刺激を得る
  - 諸外国の政策形成についても実質的な寄与を行う



# 科学技術イノベーション政策・短期研修プログラム

## < 講義内容と時間割例 >

### • 第一土曜

- 1限: 科学技術イノベーション政策へのイントロダクション
- 2限: ライフサイエンスと知的財産
- 3限: 分子レベルの脳科学とビジネス
- 4限: ライフサイエンスの国際競争力
- 5限: 歴史研究と科学技術政策

### • 第二土曜

- 1限: 技術革新に貢献する日本の中小企業
- 2限: 科学技術活動の計量分析
- 3限: デザインとイノベーション
- 4限: アジア・イノベーション・システム: 台頭する中印
- 5限: 国のイノベーションシステムとイノベーション政策

### • 第三土曜

- 1限: ICT研究人材の国際流動性とその影響
- 2限: 産学連携と技術移転
- 3限: 科学技術と外交
- 4限: ビブリオメトリックスによる世界の研究動向の分析
- 5限: 宇宙開発と社会

- 名称: 科学技術イノベーション政策・オープンセミナー【20人程度／夏季土曜日・3日間の集中講義】
- 学生: 国内外の中央府省・地方自治体・関連機関の職員、民間企業(在職者)等
- 国内外の専門家がそれぞれ1コマ(90分)×15コマのオムニバス講義
- 使用言語は英語を主とし、日本語の資料も用意
- 全講義を聴講した一般参加者には修了認定証を授与し、本学の履修生には2単位を認定

# 年度別・課程別の修了者数見込み(目標)

|        | 博士課程 | 修士課程 | 短期研修 |
|--------|------|------|------|
| 平成23年度 | -    | -    | -    |
| 平成24年度 | -    | -    | -    |
| 平成25年度 | -    | -    | 20   |
| 平成26年度 | 1    | 5    | 20   |
| 平成27年度 | 3    | 7    | 20   |
| 平成28年度 | 3    | 10   | 20   |
| :      | :    | :    | :    |
| 平成38年度 | 3    | 10   | 20   |
| 計      | 37   | 122  | 280  |

# GISTプログラム担当者 (常勤・専任教員メンバー)

- 後藤 晃 教授・プログラムディレクター\* (イノベーションの経済学)
- 有本 建男 教授 (科学技術行政、科学技術と社会)
- 鈴木 潤 教授 (イノベーションの構造分析、計量的政策評価)
- 永野 博 教授 (科学技術政策史、国際比較)
- パタラポン・インタラクムナード 教授 (技術経営・政策分析)
- 角南 篤 准教授 (科学技術イノベーション政策のガバナンス)
- 隅蔵 康一 准教授 (ライフサイエンス政策、知財戦略) (NISTEP出向中)
- その他、複数の若手教員を採用予定

# 総合拠点として主導する 5種類の拠点間共同プログラム

1. 国際シンポジウム
  - 各拠点共同で年1回国際シンポジウムを開催し、海外から著名な研究者を招へいして国内外の関係機関の活動に関する情報交換を行うとともに人的ネットワークを拡大
2. 政策構想ワークショップ
  - 毎月1回程度の頻度で各拠点の学生・教員の研究成果の報告を行い、現役の行政官・政治家・企業家等をまじえたディスカッションを行うことにより、研究成果の実社会への応用と社会のニーズ吸収を図る
3. サマーキャンプ
  - 各拠点と共同で夏季に合宿形式の研究会を開催
  - 内外関係学会・機関とタイアップも想定
4. 研究成果発信機能の整備
  - 拠点間の情報交換と外部への情報発信のため、本事業全体のディスカッション・ペーパー、新着情報等の集積・発信等の機能を提供
5. インターンシップ
  - 就業経験がない学生もしくは新たなキャリア構築志望者に対して、行政・立法機関等に協力を要請し、長期(3か月～6か月)のインターンシップの機会を提供

- 政策構想ワークショップ

- 定期的に、学生・教員の研究成果を報告
- 開催場所：霞が関あるいは永田町周辺の貸会議室
- 開催時間：夕方一夜の時間帯
- 現役の行政官・政治家、民間企業有識者等をまじえたディスカッションを行う
  - 政治家への参加呼びかけは、本学のステーツマン・プログラムの連絡網を想定
  - 本ワークショップは本学が企画・運営を行い、他の教育拠点の学生や教員にも参加を呼びかける

- サマーキャンプ

- 各拠点と共同で、夏季に合宿形式の研究会を開催
- 2013年度第1回開催予定
- 将来的には、拠点以外からの参加も検討

# 各種ネットワークを活用した取り組みの例



## シンポジウム

「科学と政策をつなぐ-政策のための科学の実践に向けて-」  
(2012年8月6日)

\*左より、鈴木寛参議院議員、林芳正参議院議員、斉藤鉄夫衆議院議員、土屋定之文部科学省科学技術・学術政策局長

## シンポジウム

「研究に着目した日本の大学ベンチマークと今後の大学のあり方について」(2012年10月1日)

\*文部科学省科学技術政策研究所と共催



## 第38回GISTセミナー

「科学技術外交と日本における課題」  
(2012年10月9日)

講演者: V.トレキアンAAAS科学技術外交部長

# ASIALICS Tokyo 2013

- Main theme: **The Roles of Public Research Institutes and University in Asia's Innovation Systems**
- Subtheme: similar to Manila's conference
- Venue: GRIPS's campus
- Call for paper/website: January 2013
- Abstract Submission: 30 April
- Notification of Acceptance: June 30
- Full Paper Submission: 15 August
- Conference date: 20-22 September



## 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

### 基盤的研究・人材育成拠点シンポジウム

# 「科学技術イノベーション政策研究の過去・現在・将来」

科学技術イノベーション政策研究の動向、あるべき方向性などについて議論。科学技術イノベーション政策研究はこれまでにどのような研究成果をあげてきたか、さらに、それは実際の政策にどのように貢献してきたか、科学技術イノベーション政策研究と政策の関係はどうあるべきか、といった点を、この分野の代表的な研究者に語ってもらい、議論することを予定。

#### 講演者(予定)



**Richard R. Nelson**  
コロンビア大学教授



**Jakob Edler**  
マンチェスター大学イノベーション  
研究所(MIoIR) 所長・教授



**Poh-Kam Wong**  
シンガポール国立大学  
起業家センター長・教授



**Andrew Stirling**  
サセックス大学科学技術  
政策研究所(SPRU)教授



**Robert Doubleday**  
ケンブリッジ大学科学と政策  
エクゼクティブ・ディレクター

日時: 2012年12月14日(金) 10時~17時(予定)

場所: 政策研究大学院大学 想海樓ホール (東京都港区六本木7-22-1)

主催: 政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学、九州大学

後援: 文部科学省

言語: 日本語・英語(同時通訳あり)